

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	小城市立三里小学校
-----	-----------

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	・達成度は全てにおいて十分達成の数値を示した。チーム一丸となって、日頃からの取り組みの成果だと考える。 ・特別支援学級の児童が増加傾向にあるため、コーディネータの育成や校内体制作りを急ぐ必要がある。 ・「地域との連携」について、地域の実態の変化や働き方改革の視点を含めて、各種団体との協議を進め、改善を図っていく必要がある。
------------------	--

2 学校教育目標	「ふれあい チャレンジ きらりかがやく 三里の子」の育成
----------	------------------------------

3 本年度の重点目標	(1) 確かな学力の定着と指導力の向上 (2) 人間性豊かな心の育成 (3) 「志を高める教育」の深化
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目						
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師75%以上	・教職員間でマイプランを共有し、校内研修等によりPDCAのサイクルに基づいた取り組みを推進する。	A	・PDCAのサイクルに基づいた取り組みとして、自主学習の推進をさらに進め、自主学習ノートの良い取り組みを全校児童が見てまねできるように掲示したり紹介したりすることができた。 ・全国学力・学習状況調査の結果を考察し、「説明させる」ことを授業の中で仕組んできた教師がほとんどであった。	・少人数を生かし、理解できるように丁寧に指導していただいており、作品展等の入賞者が増えていることは嬉しいことである。
	○国語科「書く活動を取り入れた「読むこと」の指導を中心に」の授業研究を通して、「自分の考えを自分のことばで進んで表現する力」を育む。	○学習等で自分の考えを言葉や文章で表現することができるようになってきた児童80%以上をめざす。	・全職員、研究授業を行う。 ・事前・事後研究会を必ず行い、今後の授業に生かす。 ・毎時間、児童が自分の言葉で学習内容について振り返り、発表する。	A	・1月に行った児童アンケートで「自分の思いや考えを文章で書くことができる」児童が90%であった。来年度は文章で書き、自分の思いを表現できる児童を育成したい。 ・全職員、研究授業を行い児童の学力向上と教師の授業力向上に向けて研修を行うことができた。	少人数学級だから、行き届いた学習ができていると思う。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○縦割り班活動を通して、班の仲間のよさを見付け、協力して活動できている児童が83%以上をめざす。	・縦割り班集団活動を通して、自他の違いに気づき、互いのよさを認め合う関係をつくる。	A	・1月の児童アンケートにおいて、「縦割り班活動は、仲良く協力してできているのが伝わってくる。活動の様々な場面で、個々が尊重されているためであると考え。コロナ禍での活動減もあったが、その中でも自他を尊重できるような場の設定ができた。	・縦割り班の成果でしょうか、上級生が下級生の世話をしているのが伝わってくる。 ・競争心が高まれば、もっと努力する気持ちかもてそうな気がする。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○三里小「いじめゼロ宣言」を守って生活している児童を90%以上にする。 ○心のアンケートの実施率を100%とする。	・全教職員で全児童を見守り、いじめ・不登校等の未然防止と早期発見に努める。 ・「安心、自信、自由」を確認し、いじめゼロ宣言を、児童に浸透させる。	A	・「いじめゼロ宣言」を守って生活している児童が「あてはまる」「大体あてはまる」を合わせて100%であった。全職員でのいじめを未然に防ぐ声かけや指導、いじめの早期発見につながる毎月の心のアンケート実施が生かされていると考える。	・全校が兄弟のように生活しているように見受けられる。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や何らかの目標を持っている」について肯定的な回答をした児童(小学6年生)75%以上	・キャリア・パスポートを活用し、自分自身を見つめる機会を設定する。 ・褒める機会を数多く設定し、自己肯定感を高める声かけを心がける。	A	・「自分の夢に向かってがんばっている」という児童や「学校目標のようにチャレンジしてがんばっていることがある」という児童は、アンケートで98%であった。授業場面だけでなく、学校での様々な活動や地域での活動を通して一人一人が自分の夢の実現に向けて意欲的に取り組むことができた。	・キャリアパスポートの内容は、とても素晴らしく分かりやすいと思う。大いに活用していただきたい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	「早寝早起き朝ご飯」朝食喫食率92%以上をめざす。	・食につながる農業体験活動を通して、自分の「食に対する見方や考え方」を見直す機会をつくる。	A	「朝ご飯を毎日食べていますか。」というアンケートでは99%が喫食し、ほぼ全ての児童が朝食を摂って登校している。命をいただくことの学習や授業以外での指導の中で、食の大切さを意識することができたと考えられる。	・食育に関しては、自然塾での体験等が評価されているものだと思う。環境にも恵まれている。
	○たくましい体づくりの推進	○継続的な体作りを推進し、やり遂げる児童を88%以上にする。	・「朝ランニング」や「スポーツチャレンジ」への参加を奨励する。	A	・アンケートの結果、朝ランニングや運動を頑張っている児童は95%であった。また、スポーツチャレンジの参加を奨励し、長縄やみんなで輪ぐりなどに参加する学年もあった。	・マラソンは完走を目標にされており、とても良い行事だと思う。 ・朝ランニング、ずっと続けて欲しい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校行事や地域連携行事のあり方を地域役員と協力して見直す。 ・組織力で校務分掌担当業務量の軽減化を図る。	A	業務や校時の見直し、効率化を図り、勤務時間を意識した働き方改革の推進を図った。12月までの月別超過勤務時間の平均は20.6時間(昨年度は26.8時間)となり、昨年度より6.2時間減となっており順調に成果をあげている。	・働き方改革は大切である。先生方の心身が健康でなければ、何事にも取り組むことができない。
	○ICT利活用、行事、会議の更なる厳選	○会議の時間を1割削減(例:100分→90分)	・会議を厳選し、回数を減らす。 ・ICTを活用し、電子回覧板等の機能を有効活用し、会議の時短を図る。	A	連絡事項は、電子回覧板等の活用を呼びかけ、職員会議の時間をほぼ1時間以内とすることができた。職員会議の回数を2回減らすことができた。	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	意見や提言
○開かれた学校づくり	○保護者や地域に信頼される学校づくり(教育効果を高める連携)	○学校の様子が分かるような情報が発信されていると答える率が83%以上をめざす。 ○保護者や地域の方と連携・協力しながら、活動できていると答える率が80%以上をめざす。	・定期的な学級通信や学校便り等を活用して、情報発信を積極的に実施する。 ・学校と育友会と地域との連携のもとに、新学習指導要領に沿った活動を推進する。	A	・学校・学級通信や各種お便り等を利用して、保護者に情報発信を積極的に行うことができている。(保護者アンケート98%) ・保護者や地域と連携・協力して教育活動に取り組むことができている。(保護者アンケート98%)	・学校便りで学校の様子がよく分かるようになった。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	・達成度は全ての項目において十分達成の数値を示した。チーム一丸となって、日頃から具体的目標を意識して取り組んだ成果だと考える。 ・小規模校の良さを生かし、家庭と連携して一人一人の実態に即した指導にあたることとおおむねできた。家庭との連携を継続して進めていく必要がある。 ・「地域との連携」について、地域の実態の変化や働き方改革の視点を含めて、各種団体との協議を進め、引き続き改善を図っていく必要がある。
----------------	---